

4月25日正午必着

明石春浦先生書

琴書自足閑中樂
天地能容醉後狂

琴書自足閑中樂 天地能容醉後狂 (陸游)

明石幸子書

伊勢の海や霞をそめて出づる日の潮瀬にほふ春のあけぼの

伊勢の海や霞をそめて出づる日の潮瀬にほふ春のあけぼの (清水濱臣)



条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

花意竹情（文徵明）

花意竹情

春の野には花竹が美しく見られる。

臨溪高柳爲誰綠
隔浦幽花還自香（彭汝礪）

溪に臨める高柳誰が爲にか緑なる
浦を隔つるの幽花還た自ずから香ばし

谷に臨める柳は緑の色を呈し、向う岸の花は既に
美しい色に咲いている。

江上別張勸（戴叔倫）

江上にして張勸に別る 戴叔倫

年年五湖上 厭見五湖春

年年 五湖の上りに 厭い見る 五湖の春

長醉非關酒 多愁不爲貧

長に酔うは 酒に関わるに非ず 愁い多きは 貧が爲ならず

山川迷道路 伊洛暗風塵

山川 道路に迷い 伊洛 風塵暗し

今日扁舟別 俱爲滄海人

今日 扁舟もて別れ 俱に滄海の人と爲る

玉すだれゆらぐともなき春風のゆくへを見せて 舞ふ胡蝶かな（落合直文）

半紙部規定課題A

4月25日正午必着

蕉 翻
葉 經
上

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

4月25日正午必着

行書

隸書

明石春浦先生書



草書

行草書

ただひとり双峰に対して過す中に年老い 松木立の中の門は両側よりせまる崖をびったりと閉ざす
 經典を翻訳して芭蕉の葉に書きしるし 袈裟を掛けておくところに藤の花が散りかかる
 石畳を敷いて、新たに井戸を開き 林を切り拓いて毎日茶を植えておられる
 時折り海の南より訪れる客に逢い 南蛮のことばで誰方かなどとたずねている

贈「山中日南僧」 張籍

獨向「雙峯」老

松門閉「兩涯」

翻經上「蕉葉」

掛衲落「藤花」

甃石新開「井」

穿林日種「茶」

時逢「海南客」

蠻語問「誰家」

山中の日南の僧に贈る

張籍

独り双峰に向かつて老ゆ

松門 両涯を閉ず

経を翻して蕉葉に上せ

衲を掛けて藤花を落す

石を甃みて新たに井を開き

林を穿ちて日に茶を種う

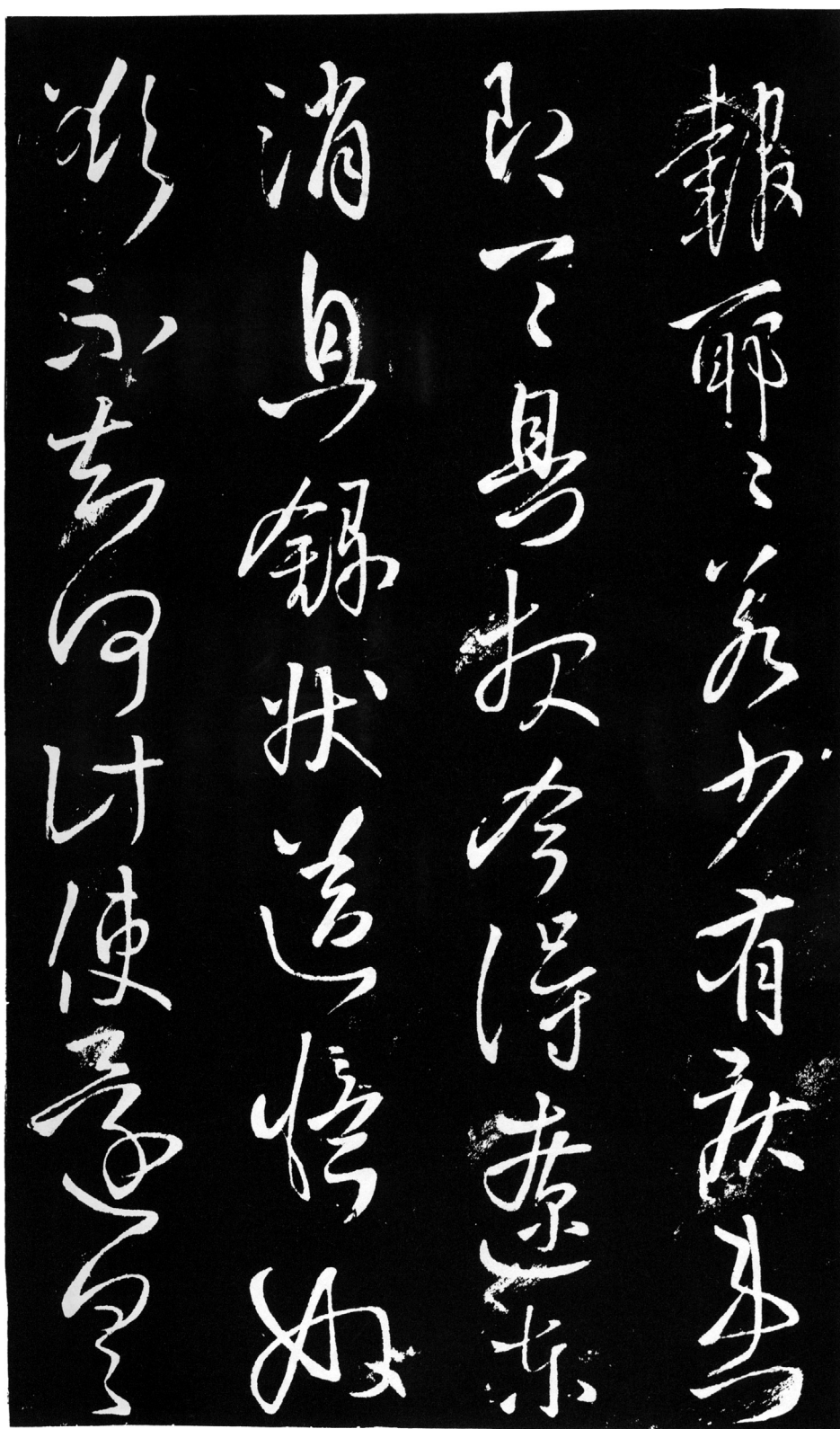
時に海南の客に逢い

蛮語して 誰が家かを問う

(出典)
 朝日新聞社刊
 「三体詩」下より

4月25日正午必着

(即) 報す。爺爺若し少しく疾患有らば、即ち一一具に報ぜよ。今寮東の消息を得て、状を録し送る。憶奴(死せんと)欲す。何の計なるかを知らず。使い還り具す。



消息録
状送

消息を（得て）状を録し送る。

今得悉東消息録状
送情如好不知何

明末清初 王鐸・擬山園帖 第一

明の時代は、行草書および細楷による書表現が多くを占めていたが、清朝になると篆隸書が大きな比重をもって加わり、更に明末から起こった条幅という作品様式がよりいっそう広く行なわれるようになって、書表現の幅が広まった。この時代（明末から清代初期）にかけて傑出した秀才書家が王鐸である。王鐸は、若くして進士の試験に合格した。明朝に仕え、順調に出世を続けたが、明亡後は清朝にも仕えた為、二朝に仕えた王鐸の進退は世の非難的となった。彼は詩文書画いずれもよくしたが、書においては特にすぐれ、後世、董其昌と並び称されている。

王鐸の作品といえば、連綿草で自由に動き回る書を思い浮かべるところだが、彼は鍾繇・王羲之以来の様々な古典を広く学び、年齢によって幾多の書風の変貌を見ることが出来る。この擬山園帖は、王鐸の晩年八年間に書かれたものを刻し、全十巻にまとめたものである。ここにあげたものはその第一の中からのもので、王羲之の書風がうかがえる。その筆法は長鋒でゆっくり書いたように思えるが、当時の正統派の筆法からすると、奇怪にうつったところかと思う。従来、模倣一点張りの筆法を嫌った彼独自の解釈により、成し得た結果であろうと思われる。（春廣）

今寮東の消息を得て、状を録し送る。憶奴（死せんと）欲す。何の計なるかを知らず。

4月25日正午必着

教育部毛筆

紹介

しょう
紹

かい
介

中学一年

雨宮春聲先生書

建築

けん
建

ちく
築

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



りょう
良

こう
好

小学五年

榎戸春龍先生書



じゅん
順

ふう
風

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

4月25日正午必着

羊毛

よう
羊

もう
毛

小学三年

藤田幸春先生書

土地

と
土

ち
地

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

た い 小学一年・幼年



森戸春濤書

じん りき 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

4月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

雲の切れ間にまる
い月が顔をだした

小学五年

美しい春の草花が
広い野原をかざる

小学六年

湖畔の向こうに見え
る連山は雄大である

中学

四月の風はやわらかく
野山を春の色に染める

一般(級位)

霞たつ春の山邊は遠けれど
吹き来る風は花の香ぞする

一般(段位)

かすみ 霞 たつ 春の山邊は 遠けれど 吹き来る風は 花の香ぞする (在原元方)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

う	春
か	の
ん	空
だ	に
白	ぽ
い	っ
雲	かり

小学四年

さ	こ
く	の
ら	川
の	ぞ
名	い
所	は
だ	

小学三年

も	な
ん	の
白	花
ち	ば
よ	た
う	け
	の

小学二年

さ	川
え	の
ず	き
る	し
ひ	べ
ば	で
り	

小学一年

お	い
た	け
ま	の
じ	な
ゃ	か
く	の
し	

幼年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

4月25日正午必着

松永翠舟先生書

いづれ
うき
もの
かな

いづかに
可多二
なきて
奈支
由
ゆくらん
時鳥
ほとこぎす
よどの
能多
わたりの
まだよふ
万与婦
可支二
かきに
(壬生忠見)